

世界史探究 2026 年度 出題の意図

リード文を読み、空欄や下線部に関連する設問に答える形式で出題した。語句選択問題、人物名や語句の組み合わせ選択問題、語句記述問題で構成し、4 世紀後半から 20 世紀前半に至る西ヨーロッパ・ユーラシア・近代国際関係の各分野から幅広く題材を選んだ。重要用語の知識に加え、人物と時代・地域・業績との結び付きや、歴史的事象の因果関係を整理して理解しているかを確認することを重視した。あわせて、地図や年代を手がかりに事象の位置と前後関係を捉える力も求めた。

第 1 問は、ゲルマン人の大移動とフランク王国を題材とした出題で、中世西ヨーロッパ世界の形成過程を扱った。メロヴィング家からカロリング家への王統の交替、トゥール＝ポワティエ間の戦い、カール大帝の戴冠、ヴェルダン条約・メルセン条約によるフランク王国の分裂、オットー 1 世による神聖ローマ帝国の成立といった基本事項に加え、ローマ教会とビザンツ皇帝との対立や聖像禁止令の意義について関連づけて理解しているかを確認している。あわせて、東ゴート人・ヴァンダル人などゲルマン諸部族の移動経路を地図から読み取る力や、ベネディクトゥスがモンテ＝カシノに開いた修道院に始まる修道院運動、オットー 1 世がレヒフェルトの戦いで撃退した民族の知識も確認した。

第 2 問では、モンゴル帝国の発展と東西交流を取り上げた。チンギス＝ハンによる建国から、オゴタイ・フビライら歴代ハンの治世、バトゥ・フラグの遠征、アッバース朝の滅亡、元の中国統一に至る流れを整理して問うている。あわせて、駅伝制（ジャムチ）の整備や紙幣の交鈔の流通、ルブルック・モンテ＝コルヴィノなどの使節やマルコ＝ポーロ・イブン＝バットゥータなどの旅行家の役割を通じて、ユーラシア規模で展開された東西交易と文化交流への理解を確認した。

第 3 問は、バルカン問題と第一次世界大戦を題材とした出題で、三国同盟・三国協商成立までの流れ、青年トルコ革命とオーストリアによるボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合、二度のバルカン戦争を順序立てて整理する力を求めた。さらに、サライエヴォ事件を契機とする第一次世界大戦の勃発、総力戦体制への移行、アメリカ合衆国の参戦、十四ヵ条の平和原則やブレスト＝リトフスク条約締結に至る経過の理解を確認した。

※各問いの詳細は、一般選抜 A 一日目の内容に基づいて記載しております。